

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0270301625		
法人名	有限会社テル・サウスウインド		
事業所名	グループホーム テル・サウスウインド		
所在地 (電話番号)	〒031-0841 青森県八戸市鮫町字冷水平1の6 (電話) 0178-38-2670		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年3月6日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 1月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	18,000 ~ 冬期27,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	名
年齢 平均	82 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村クリニック、美保野病院、きどクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

種差海岸のすぐそばで、潮の匂いを感じられる場所に立地している。格調高い家屋と庭園があり、穏やかな雰囲気である。「入所者とご家族が安心し、信頼して頂ける介護と看護を公平、奉仕の心です」をモットーにかけ、職員は利用者により添ったケアに徹しているとても温かな事業所である。地域との交流を密にし、利用者が地域の一員として生活する為、理事長はじめ職員は地域貢献に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題となった「職員が個々の力量に応じて段階的に研修を受講できるよう、年間計画を作成する」については、外部機関の年間計画が出ないため、それに沿う事が出来ていないが、内部年間計画は作成されており、研修も個々に合わせた計画がされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員で共有し合い、全職員で取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえた改善計画を作成し改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、家族、町内役員、民生委員の方と意見交換をし、出された意見をもとに、サービスの向上に取り組んでいる。自己評価、外部評価の結果を報告し、改善点への事業所の取り組みに理解と協力を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	運営推進会議や苦情受付窓口に出された家族の意見は全職員で話し合い、日々のサービスに反映する取り組みをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者、職員は近隣の方々が日常的に、気軽に立ち寄りいただける様な働きかけを行っている。運営推進会議を通して町内会や、小・中学生との交流に積極的に関わっている。また、中・高生の職場体験を受け入れたり、キャラバンメイトとして認知症の理解と普及活動の役割を担っており、認知症を理解し協力をしていただく為の取り組みをしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入所者のご家族が安心、信頼して頂ける介護と看護を公平、奉仕の心でする」を理念に掲げ、地域との交流を考えた事業所独自の理念がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員がミーティング等で理念を共有し、日々のサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者、職員は地域の方々と日常的に交流がある。気軽に立ち寄っていただける活動として、自治会や地域活動の行事に参加したり、小・中学校の職場体験実習を受け入れるなど、小・中学校との交流にも積極的に取り組んでいる。さらに、キャラバンメイトとして、認知症の理解と普及活動に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、自己評価を実施する際には全職員で取り組んでいる。評価の結果をミーティングなどで話し合い、改善に向けた取り組みをしている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族、町内役員、民生委員、消防団の方々の参加をいただき、日々の取り組みや評価結果等を報告し、話し合い、そこでの意見をサービス向上に反映している。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員には運営や現場の現状、利用者についての具体的な相談を積極的に伝え、助言をもらい、市と共にサービスの質の向上に努めている。行政に関する疑問、質問を行い、市と実態を共有し問題解決に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護に関する研修、勉強会を行い全職員で理解を深め、必要な人には支援に繋がれる対応を考えている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、外部、内部研修を通して虐待について理解を深め、全職員で意識し防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に理念やサービス内容、個人情報の取り扱い、金銭管理方法などについて利用者、家族に説明し、理解、納得を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3～4ヶ月毎に、個別に手紙で暮らしぶりや健康状態について写真を添えるなどして報告している。金銭管理状況は月1回の報告となっている。手紙には利用者の心情や現状が細やかに書かれており、職員の利用者に対する心くばりが伝わってくる。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や苦情受付窓口に出された意見、苦情は全職員で話し合い、日々のケアに反映されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員がやむなく離職する事になった場合でも、利用者への影響に配慮し十分な説明をし、不安を最小限に抑えるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修の年間計画を作成し、職員の研修する機会の確保に努めている。外部研修については外部の各機関からの年間計画要綱が出てこないため、年間計画を立てにくい。外部研修には参加している。運営者は職員の公平な研修参加に努め、トレーニングしていく取り組みをしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は地域のグループホーム協会に加入し、同業者同士の学習会に参加したり、職員が他事業所への研修に出など、交流を通じたサービスの質の向上へ努めている。運営者は他事業所との積極的な交流もあり、より良いサービスの提供に職員と共に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が入居前に見学に来たり、面接、話し合いをして意向を伺い、事業所や職員に馴染み、納得した上でサービス利用が出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者といれあう時間を大切にしており、一人ひとりの気持ちを理解する取り組みをしている。また、地域の食べ物の作り方を教わり、利用者と一緒に作り、食すなど共に支えあう関係作りができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望、家族からの情報、アセスメント、日々の関わりの中から意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、利用者に寄り添い、表情などから意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時には、利用者、家族、担当者、全職員からの情報や気づきを話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実施期間を明示しており、利用者の状況に合わせ、3～4ヶ月毎の見直しをしている。また、利用者の変化に応じ、随時見直しをしていると共に、職員や家族と情報を密にし、その時々意見や気づきを最大限に取り入れた介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の希望や、天気の良い日の外出、買い物、受診時の送迎を行うなど、事業所の多機能性を活かし、柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に利用者、家族の希望を伺っている。かかりつけ医の月2回の往診のほか、いつでも協力していただける体制を整え、適切な医療が受けられる支援をしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期についての説明を行っているが、現段階では対応していない。家族の希望があればかかりつけ医と相談し方針の方向性を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は外部研修や内部学習会を通じて個人情報保護法を理解している。また、利用者の言動を否定することなく、個人のプライバシーや羞恥心などに配慮したケアを心がけている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急がせる事なく、利用者のペースや希望を尊重した対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居時の情報や日々の関わりから、一人ひとりの好みを把握し、献立に取り組んでいる。職員は利用者の食事状況を見守り、楽しい食事となるよう努めている。食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日や入浴時間は出来るだけ希望に合わせて、入浴を楽しむ支援や安全を考えた対応を行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>アセスメント等から一人ひとりの生活歴を把握しており、食事の後片付けや洗濯物たたみ、また趣味の書道やテレビ観賞など、役割や楽しみ、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望を聞きながら、買い物や散歩、温泉に出かけるなど、日常的な外出支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部、内部研修を通じて身体拘束について理解している。センサーマットを使用するなど拘束のないケアを徹底している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関に施錠していない。居室についても開放的である。職員は利用者の外出傾向を察知した時は、一緒に出かけるなどの対応をしている。無断外出時に備え、近所の中学校や地域の方々に協力依頼をしている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルや組織網が整備されており、昼夜を想定した訓練を年2回行っている。運営推進会議を通じて地域や家族、消防団などに働きかけ協力を得ている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスやカロリーに配慮しながら職員が献立を立て、栄養士から助言を得ている。水分量や食事量チェックがされている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症のマニュアルの見直しがされており、職員は感染予防対策として、次亜塩素酸ナトリウムを使っての拭き掃除や、手洗い、うがい、利用者職員のみならず訪問者に対しても予防の徹底に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には落ち着いた調度品が置かれ、心地よく過ごせる雰囲気である。居室から見える中庭には、季節が感じられる木々があり、居間にはストーブが置かれ、生活感を取り入れた居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みや馴染みのものなどを持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。